

つれづれなるまゝに 第 1 号

平成30年 6 月 20 日（水）発行



校長 深谷 浩一

「校長室だより」を始めます！

5年前、本校に赴任した時、『つれづれなるまゝに』というタイトルで「教頭通信」を書き始めました。2年ぶりに本校に戻ってきて、ふたたび通信を始めようかと考えていましたが、4月以降、何かと慌ただしく過ごしてしまいました。そのため、とても「つれづれなる」状態にはならず、「通信」にも手が回らずに、今日までできてしまったのです。



徒然草の作者 吉田兼好（『前賢故実』菊池容斎画 明治時代）

「つれづれなるまゝに」とは、ご存じのとおり、鎌倉時代末期の随筆家、吉田兼好の『徒然草』（つれづれぐさ）の序段（「つれづれなるまゝに、日ぐらし硯（すずり）に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとをそこはかとなく書き付くれば、あやうこそ物狂ほしけれ。」で始まる冒頭の部分。）から取ったものです。この序段を現代語にすると、「退屈なので、一日中机に向かって、つまらないことを、とりとめもなく書き連ねていると、妙におかしな気持ちになってきます。」というようなところでしょうか。一節中の「よしなしごと」とは「由無し事」とも書き、「つまらないこと、とりとめもないこと」という意味です。



今回再開する「校長室だより」にも、ふたたび『つれづれなるまゝに』と名付け、『徒然草』のように日常の出来事、「由無し事」を「つれづれなるまゝに」記してみようと思います。とは言っても、「つれづれなる」時でない^{すずり}と、硯（今の時代はパソコンですが・・・）には向き合えませんので、発行は不定期にはなりますが、お付き合いのほど、よろしくお願い致します。

なお、以前発行した「教頭通信」の一部は、本校ホームページの「学校生活」の中に、「中央高校に関わりのある題材」として今でも掲載しておりますので、そちらもご覧いただければ、幸いです。（おわり）